

1725年から代々続く醸造所。2006年にガイゼンハイム大学で栽培醸造を学んだヨハネス・ローレンツが、醸造所に戻ってくると同時にビオロジックに転換。化学合成農薬・合成肥料や除草剤の使用を止め、ピオ農法団体エコヴィンの認証を取得。自前の太陽発電パネルを設置して電力を賄い、冬の剪定作業を行わず、ブドウ樹が自然に到達したバランスで自然に収量を落とし、小粒で香り高い葡萄を得ている。

醸造所があるラインヘッセン東部のフリーゼンハイムは、標高245mのペータースベルクの山の影にある。15haの畑の土壌は、レス土やローム質土壌や石灰質を多く含む泥灰土。品種はリースリング、ミュラー・トゥルガウ、シャルドネ、ヴァイスブルグンダー、ジルヴァーナー、フクセルレーベ、ショイレーベ、カベルネ・ブラン、ドルンフェルダー、カベルネ・ソーヴィニヨンなど。生産の約60%が赤ワイン、95%が辛口。微発泡スパークリング「ヴァッハゲキュスト」（「目覚めのキス」の意味）の他にも「ウアシュライ」（「根源からの叫び」の意味。無剪定栽培で原始的なワイン造りを目指した赤）など、若手醸造家らしいユニークなネーミング。

	<b>◎ Wachgeküst Secco - Weiß</b> ヴァッハゲキュスト・セッコ ヴァイス			備考	リースリングとリヴァーナー（＝ミュラー・トゥルガウ）をベースに、生産年によってわずかにセパージュを変えて醸造する。それによって、色や味わいも年により若干異なる。
	畑	品種：リースリング、リヴァーナー他 植樹：1985年頃 位置：標高170m、南向き 土壌：石灰岩土壌	醸造		
	<b>◎ Wachgeküst Secco - Rose</b> ヴァッハゲキュスト・セッコ □ゼ			備考	ワインの名前は、ドイツ語で『目覚めのキス』を意味する。飲んだ時に、あたたかキスをされているかのように舌の上に心地よい泡を感じる。
	畑	品種：ポルトギーザー 植樹：1985年頃 位置：標高270m、南向き 土壌：石灰岩土壌	醸造		
	<b>○ Riesling trocken</b> リースリング・トロッケン			備考	有機栽培されたリースリングの、自然で肩の力が抜けた素直な味わいが魅力。普段飲みにもってこい。
	畑	品種：リースリング 植樹：1995年頃 位置：標高170m、南向き 土壌：石灰岩土壌	醸造		
	<b>● Wilhelm Tell Apfeltischwein</b> ヴィルヘルム・テル・アプフェルトィッシュヴァイン（りんごワイン）			備考	地元向けに造られたと思われる、気軽なアップルワイン。ちょっとすり切れた感じのあるリサイクルボトルと、シンプルで、どこかレトロなエチケット。味わいは軽くさっぱり、よく冷やしてどうぞ。
	畑	品種：様々な種類のリング 植樹：不明 土壌：石灰岩土壌	醸造		